



第46回全国伝統的工芸品コンクール

JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT
COMPETITION 2021

2021年度 全国伝統的工芸品公募展 報告書



主 催： 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後 援： 経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

開催概要

全国伝統的工芸品公募展HP

名 称 2021年度 全国伝統的工芸品公募展
第46回全国伝統的工芸品コンクール／
JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2021



開催主旨 長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイデアや表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開発を行う目的で実施。現代生活で使われるための 需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品での市場開拓を狙う。

応募期間 2021年10月1日(金)～ 11月4日(木)

審査会 2021年11月24日(水) 国立新美術館／東京都港区

審査結果発表 2021年11月24日(水)

2021年度受賞作品

応募総数 133工芸品／254点／応募者212名

審査結果 入賞15点 入選82点



審査員	役職名
宇野 万貴子	株式会社 高島屋 MD本部 呉服部 日本橋店呉服部長
北村 仁美	国立工芸館 主任研究員
黒川 廣子	東京藝術大学 大学美術館 館長・教授
小稲 彩人	岐阜県セラミックス研究所 専門研究員
斎藤 秀幸	経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長
田中 敦子	工芸ライター
棚町 敦子	「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー
戸田 敏夫	日本伝統工芸士会 副会長
日野 明子	クラフトバイヤー
増村 紀一郎	漆芸家 東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者
御手洗 照子	有限会社 T-POT 代表取締役 株式会社 t.gallery 代表取締役
原 田 元	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 代表理事

大館曲げわっぱ

天然秋田杉 シャンパンクーラー 大、中、小

柴田昌正(秋田県)



講評

木目の細かさのような素材の良さや美しさを活かしており、高い技術力を感じる。綴じ目も大中小の器それぞれにバランスよく映えており機能と美しさを兼ね備えている。海外の生活の中にも溶け込み使うことができる可能性を感じる作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

- 1973年 秋田県大館市生まれ
- 1998年 大学卒業後、2年間の会社勤めを経て秋田へ戻り、父・慶信に弟子入り、曲げ物の道に入る
- 2006年 第24回くらしの工芸展 審査員奨励賞受賞
- 2009年 日本橋三越本店に常設店オープン
- 2010年 有限会社 柴田慶信商店 代表取締役就任
浅草店(雷門通り)オープン(2015年にオレンジ通りへ移転)
- 2011年 大館市清水町より、御成町へ本社移転
「パン皿(大・小)」 「バターケース(小判・丸)」
グッドデザイン賞受賞(食卓・調理用品)
- 2012年 「つくし弁当箱」グッドデザイン賞受賞(家庭用品・機器・設備)
「ひと息タンブラー」グッドデザイン賞受賞(生活・家庭用品、キッチン用品)、伝統工芸士認定(木部加工部門 507045号)
- 2013年 「臍帯箱」グッドデザイン賞受賞(個人用品、育児・介護用品)
- 2014年 「おむすび弁当箱」グッドデザイン賞受賞(生活・家庭用品、キッチン用品)、全国伝統的工芸品公募展入賞 生活賞(おむすび弁当箱)

- 2016年 全国伝統的工芸品公募展入賞 日本伝統工芸士会会長賞(飯器)
- 2017年 「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT2017」にて《iwai》発表、同プロジェクトでグエナエル・ニコラ氏より「注目の匠」として選出
- 2018年 複合商業施設「わっぱビルヂング」オープン(1階わっぱビルヂング店では曲げ物コレクションのミュージアムと製作体験可能なスペースを設置)福岡岩田屋本店に常設店オープン
- 2019年 商業施設「わっぱビルヂング」がグッドデザイン賞受賞(取り組み・活動)
- 2020年 大館曲げわっぱ協同組合 理事長就任



受賞者の声

素材の素晴らしさを活かしたシンプルなデザインに注力し、基本に忠実に、これまでの技術技法を作品に全て落とし込みました。先人の技術の積み重ねがなければ、今回の受賞はなかったと思います。父親から受け継いだ技術の集大成として、先人に恩返しする気持ちです。今後、若い職人がいいものを作れる環境を整えて、技術を継承していきたいと思っています。

本塩沢

“和”ジャケット

酒井織物有限会社(新潟県)



講評

素材の持つ特徴を活かし、着物以外のアイテムである「ジャケット」に挑戦するチャレンジ精神が素晴らしい。ジャケットは伸縮性が重要だが機械織では実現できない伸縮性を実現しており、ぜひ着てみたくなる作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

新潟県南魚沼市塩沢にて1933年初代文二により創業。1972年二代目武により有限会社を設立。現在は三代目智子が代表取締役。創業年数88年の“小さな織元”です。戦時中も多くの織元が軍事工場となるなか、『技術保存指定工場』として稼働。現在も先端技術にたよらず昔ながらのやり方で糸一本から伝統工芸士の職人が丹精を込めて商品を作りつづけている日本の文化・心を継承している織元です。



受賞者の声

大変名誉ある賞を頂き有難うございました。産地の方々の生活に彩られている伝統的工芸品の役割をはたせたような気がして、とても嬉しいです。今後も弊社の存在価値を意識しながら次世代へつなげていく様な取り組みを行っていきたいと思います。名誉ある賞を頂きましたこと『心より感謝申し上げます』

経済産業省製造産業局長賞

琉球びんがた

帯「島の輝き」

田中紀子(沖縄県)



講評

価格も求めやすいうえに、描かれる鳥や花が生き生きとしており、琉球びんがたの「らしさ」と新しさが両立している。そのカラフルな色彩が南国の雰囲気を感じさせてくれ、一目見たら心惹かれる作品であると評価され、選定された。



【プロフィール】

1971年 兵庫県に生まれる
1996年 沖縄県立芸術大学染織コース終了
～沖縄県にて制作活動
2001年～個展・グループ展等開催
2005年 紅型工房「染虫」開設
2010年 tituti OKINAWA CRAFT 開業（工芸作家とコーディネーターによるブランド）

りゅうぎん紅型デザイン公募展 最優秀賞
沖縄市工芸コンテスト グッドデザイン賞・奨励賞
沖展 入選

沖縄女流美術家協会会員

受賞者の声

この度は経済産業省製造産業局長賞を賜りまして誠にありがとうございます。大変嬉しく光栄に思っております。これからも沖縄の先人達の知恵や技術を大切にしながら、現代～未来へつながる魅力的な物づくりに精進してまいります。

中小企業庁長官賞

常滑焼 火窯変、紅茶用 茶器セット

梅原廣隆(愛知県)



講評

形が洗練されており、窯変の火の様子が1つ1つ異なり美しい。価格も求めやすく、作品名は「紅茶用茶器セット」という名前だが、日々の暮らしの中で人々が紅茶以外にも様々なお茶を楽しむ時間をより豊かにしてくれる作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

1946年 愛知県常滑市に生まれる
1966年 愛知県立常滑高等学校窯業科 卒

第二回 日本煎茶工芸展 入選
第十八回 長三賞デザイン部門 長三賞 受賞
第二十三回 長三賞 技術部門奨励賞 受賞
第二十四回 長三賞 入選
第一回 日本伝統工芸士会展 入選

1978年 常滑焼製法特許 取得
特許第一四〇〇二二四号
1988年 玉光二代目を継ぐ
1994年 伝統工芸士認定
1997年 穴窯築窯「椎ノ木窯」
1998年 愛知県優秀技術賞 県知事賞 受賞

2003年 愛知県「伝統功労賞」 受賞
愛知県「優秀技能賞」 受賞
2012年 「中部経済産業局長賞」 受賞
2019年 中国・宜興 世界大茶壺展 入賞
2020年 日本国 瑞宝単光章 授与

陶号 二代目 玉光



受賞者の声

この度は、中小企業庁長官賞を頂きありがとうございます。常滑焼の茶器は、お茶を出す道具ですけど、違った使い道がないかと思い、紅茶用として使ったらとの思いから、この様な形（デザイン）となり、古来の常滑焼の伝統を生かし作りました。これからも愛される作品を作って行きたいと思っています。

箱根寄木細工

寄木嵌装茶箱

本間昇(神奈川県)



講評

箱根寄木細工を全体の分量の中でバランスよく収めており、非常に研ぎ澄まされたシャープでモダンな印象の作品に仕上がっている。指物のそれぞれの材の使い方も良く、鋭いデザイン感覚を感じる。寄木の新しい表現につながる可能性をもった作品であると評価され、選定された。



【プロフィール】

1931年 10月8日生

1948年 4月 有限会社本間木工所入社

受賞者の声

全応募作品を国立新美術館に展示されるので出品しました。思わぬ賞を受賞し光栄でございます。ありがとうございます。

木綿緯緋帯地

南国花鳥図

山内ゆう(島根県)



講評

南国のイメージでふわっと軽やかな鳥を絵緋のモチーフにしたことに独創性を感じる。色の出し方も現代的で、着物をお好きな方はもちろんのこと、若い方が着物の入口としてワンピースを着るような感覚で「お家での着物」を楽しめる作品である。また、洗った後のその風合いの変化も楽しめると評価され、選定された。

【プロフィール】

1991年 神奈川県横浜市に生まれる
2015年 志村ふくみ氏主催「アルスシムラ」入学
2017年 青戸柚美江氏主催「出雲織工房」弟子入り
2019年 独立し、木綿や紙布の染織を行う
2020年 島根県総合美術展にて金賞受賞
2021年 島根県総合美術展にて銀賞受賞



受賞者の声

この度は身に余る賞を頂戴し、誠にありがとうございます。独立して3年目、まだまだ、まわりの方々に教えて頂いたり助けて頂くことばかりです。皆さまから頂いた暖かいお気持ちに応えられるよう、今後も一心に染織に向き合い精進して参ります。

西陣織

棕櫚芭蕉蒔絵聯

洛陽織物株式会社(京都府)



講評

非常に緻密で、そのビジュアルの美しさとユニークさに心惹かれる。銀の引き箔の大胆な柄が渋く華やかで非常に美しく、技術・意匠共に洗練された作品であり、暮らしの中での幅広いシーンでの使用も期待できると評価され、選定された。

【プロフィール】

- 1840年 初代井筒屋萬助が西陣にて織司「井筒屋」として創始
- 1898年 三代目滋賀辰之助が「滋賀辰機業店」として創業
- 1949年 「洛陽織物株式会社」を設立
- 2001年 1998年に創業100年を超え、京都府より「京の老舗」の認定を受ける
- 2014年 西陣織大会「内閣総理大臣賞」受賞
- 2016年 西陣織大会「内閣総理大臣賞」受賞

受賞者の声

この度は全国中小企業団体中央会会長賞をいただきましてありがとうございます。今回の作品は手紡真綿の経糸に手織り職人が引き箔技法を用いて棕櫚の柄を伸び伸びと織りあげた帯です。この度の受賞で職人の手仕事をたくさんの方に見ていただけること大変嬉しく思います。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

東京銀器

珈琲ドリップケトル揃

亘理立(東京都)



講評

技術はもちろんのこと、発想の豊かさを感じる。とにかく美しい揃えで、現代の生活や住空間に適したデザインや機能性も考えられており、コーヒーブームの昨今に手にしたくなるような作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

1975年 東京生まれ
1993年 東浦銀器製作所入社
二代目石黒光南氏に師事
1997年 第5回全日本金・銀創作展入賞
2000年 東京都青年優秀技能賞
2007年
2月 経済産業大臣指定伝統的工芸品
東京銀器 伝統工芸士(造形部門)に認定
3月 東京都から感謝状
9月 関東伝統工芸作品コンクール入賞
12月 第9回全日本金・銀創作展入賞
12月 第32回全国伝統的工芸品コンクール入選
2009年
11月 第10回全日本金・銀創作展 田中貴金属
工業(株)賞 受賞

2012年
4月 光立として独立
2013年
11月 第11回全日本金・銀創作展
東京都知事賞 受賞
2020年
11月 全国伝統的工芸品公募展
全国中小企業団体中央会会長賞 受賞



受賞者の声

この度は一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞をいただきまして、ありがとうございます。数ある応募数の中から各方面の方々より高い評価をいただけたこと大変嬉しく思います。次の創作活動でより良い作品作りを目指していきます。

日本伝統工芸士会会長賞

仙台筆笥

姫御輿

増野繁治(宮城県)



講評

暮らしの中に取り入れれば使う人だけでなく来客や家を訪れた人もその優雅な猫足や全体の美しさに心惹かれる。仙台筆笥の伝統的なスタイルを保持しながら、和室にも洋室にも合う工夫がなされており、どちらの住空間でも楽しめる作品であると評価され、選定された。



【プロフィール】

- 1958年 熊本県天草に生まれる。
- 1976年 仙台筆笥製造家具店入社
- 1988年 独立し、富谷市に工房開設
- 1989年 チェアーにて宮城県デザインコンクール デザイン交流協議会長賞受賞
- 2002年 林野庁「森の名手名人、日本の100人」受賞
- 2011年 重要文化財・東京駅の復元工事、木造建具ドア、窓、枠の製作
- 2020年 2020年度 全国伝統的工芸品公募展 中小企業庁長官賞 受賞

受賞者の声

身に余る光栄です。ありがとうございます。今後もこの賞に恥じぬよう、精進して参ります。

若手奨励賞

江戸切子

光芒

石原圭悟(東京都)



講評

麻の葉が交差するものが多い江戸切子のデザインだが、この作品は直線的なデザインが目を引き、底を透かすと切子が幾重にも光を取りこんで美しい。縦の模様というのは硝子にとっては割れやすさ等から難しいデザインであり、数多くの試行錯誤が感じられる新たなチャレンジが詰まった作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

1992年 群馬県に生まれる

2015年 大学卒業後、建設会社に就職

2018年 東亜硝子工芸(株)入社



受賞者の声

このような賞をいただき大変うれしく思います。
これを励みにこれからも精進していき、たくさんの方に使っていただけるような良い作品を作っていきます。

若手奨励賞

土佐硯

内なる検索 スマホ硯

足達真弥(高知県)



講評

スマートフォンケースを思わせる形に、ぴったりと硯・筆・墨を配置するというアイデアが素晴らしい。ギフトにも良いが、自分用の現代版矢立として旅に持って行くことができ、いつでもどこでも書を味わえるというのが嬉しい作品と評価され、選定された。



【プロフィール】

- 1971年 東京に生まれる
- 2016年 土佐硯生産加工組合に入る
- 2019年 銀座イトーヤにて展示販売
- 2020年 小学館サライ高知県伝統的工芸通販（付録）
「スマホ硯」掲載
- 2021年 通販I.E.I「あつめる」にひょうたん硯、富士山硯掲載
- 2022年 四国電力広報ライト&ライフ裏表紙掲載

受賞者の声

和紙、筆、墨、硯の文房四宝における豊かさを再確認そして再発見していただけるように少しでも多くの人々へ知っていただくためのきっかけになれば幸いです。

高山茶筌

彩り茶筌（白竹）

久保左元(奈良県)



講評

伝統を大切にしながらも、茶筌の形等に現代の生活に合うセンスを取り入れており、手に持った時の楽しみを感じさせてくれる作品である。せわしない現代の生活の中で気軽にゆっくりとお茶を楽しみたい時に最適であると評価され、選定された。

【プロフィール】

1974年 奈良県生駒市高山町に生まれる。

竹茗堂左文入社 （24代目当主左文に師事）

2015年 国指定の伝統工芸士に認定される
ニューヨーク国連大使公邸にて製作実演

2019年 ロンドン「ジャパンハウス」に出展

2021年 柿傳ギャラリーにて親子展

受賞者の声

この度は、身に余る賞を頂き誠に光栄な事と喜んでおります。
気軽に茶（抹茶）を点てて頂きたい、興味を持って頂きたい想いで、彩り茶筌を製作しました。
今回、賞を頂いた経験を糧に、伝統を大切にしながら、より進化させ使う人の身になって、見て綺麗で使いやすい茶筌を作って参りたいと思います。

奄美の芭蕉布

帽子「キャプリーヌ」

長谷川千代子(鹿児島県)



講評

柔らかな風合いで、エレガントな気品を感じる。見た目にも実際にかぶった際にも涼しさを感じられるであろう作品である。ヨーロッパなどの海外ハイブランドと組むなどすると今後さらに発展しそうな作品であると評価され、選定された。



【プロフィール】

1939年 9月3日生
1969年 4月 知名町紬織工養成所へ入所し翌年11月修了
1970年 12月より紬養成所に指導員として勤務
1999年 2月 沖永良部芭蕉布工房開設
2004年
～06年 全国伝統工芸展入選
2007年 全国伝統工芸展入賞 新人賞
2009年 全国伝統工芸展入選

受賞者の声

この度は大変お世話になりました。ありがとうございました。今後共会員の皆さんと人々に好まれる作品づくりに努力致します。

バイヤー賞

南部鉄器

ドリップペっこ 0.5ℓ

畠山拓巳(岩手県)



講評

形状やデザインはもちろん、取っ手の部分に異素材を用いられている点がとてもユニークである。昨今のキャンプやアウトドアブームの中で、特別な時間のお供として楽しみながら長く使ってもらえる作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

- 1993年 岩手県盛岡市生まれ
- 2016年 薫山工房入社、三代目薫山に師事
- 2019年 第44回全国伝統的工芸品公募展 入選
- 2020年 第51回岩手工芸美術展 入選



受賞者の声

バイヤー賞を頂きましてありがとうございます。基本を大切にしながら、時代のニーズに合ったものを製作できるように頑張っていきます。これからも物作りを楽しみたいです。

バイヤー賞

越前打刃物

粉末鋼積層牛刀180mm、ペティ120mmセット
有限会社 加茂藤刃物(福井県)



講評

表面の模様が非常に綺麗で、機能面でも研ぎやすく切れ味が長く持続するように使い手に寄り添っている。生活の中で使いやすく、料理好きの方の相棒となってくれるであろう作品であると評価され、選定された。

【プロフィール】

1980年 法人化 有限会社 加茂藤刃物となる

1992年 タケフナイフビレッジ共同工房へ移転



受賞者の声

過去に何回か出品した事がありますが、入選まででした。入賞して嬉しいです。次回は上位に入れるような物を考えます。

入選作品 一覧 (82作品)

工芸品名	出品者名	作品名	都府県
置賜紬	小松寛幸	白たかお召 最上「星彩（せいさい）」	山形
塩沢紬	酒井織物有限会社	ぬくもり	新潟
十日町明石ちぢみ	吉澤武彦	黎明	新潟
近江上布	向井純子	生平 透明感のある飾りのれん	滋賀
博多織	近藤啓子	(手織り八寸帯)「星や夜や」	福岡
博多織	大淵和憲	御朱印帳揃「彼誰時」	福岡
久米島紬	平田とき子	クジリゴーシヒチサギーマルブサー2玉	沖縄
南風原花織	宮城麻里江	南風原花織ワンピース	沖縄
東京染小紋	根橋亮一	モノクロアース	東京
型小紋	三橋京子	手挿型絵羽訪問着 あやめハッ橋	東京
有松・鳴海絞	山口善照	花・雨・夜	愛知
手描き力チン	岡根美貴雄	四本すすき訪問着	滋賀
京鹿の子絞	株式会社京都絞美京 松岡輝一	Shibori-Artpanel 「深海」	京都
因州和紙藍染	YOBOTY	藍染因州和紙 廻Kai (もみ紙タイプ・落水タイプ)	鳥取
笠間焼	佐藤剛	笠間色 七十二匁 伸し皿	茨城
笠間焼	小林哲生	灰釉市松文組鉢	茨城
九谷焼	宮本雅夫	九谷色絵真麗線文酒器揃	石川
九谷焼	中村重人	冷酒セット 豊穰文	石川
九谷焼	仲田錦玉	令和九谷五彩 白彩白粒酒器揃	石川
四日市萬古焼	清水酔月	萬古縞文茶器	三重
京焼・清水焼	石田瑛人	金銀彩色絵鮫向付	京都
萩焼	小川浩延	萩梅華皮釉片口向付 五客揃	山口
砥部焼	河野玄容	<砥部焼(流し掛け)盛器・盤> (銘) 雪どけ	愛媛
筑前国焼・高取焼／博多曲物／博多織／博多人形	「黒田長政公」顕彰工芸品創出プロジェクト 代表 宮木初雄	筑前国焼・高取焼「旅茶器」組セット(男性用)	福岡
筑前国焼・高取焼／博多曲物／博多織／博多人形	「黒田長政公」顕彰工芸品創出プロジェクト 代表 宮木初雄	筑前国焼・高取焼「旅茶器」組セット(女性用)	福岡
伊万里・有田焼	梶原茂正	青磁るり釉組皿	佐賀
波佐見焼	山口台丹	墨はじき富士菊流水文六寸皿	長崎
波佐見焼	小森智久	波佐見焼白磁陽刻蓋物 壺～伍	長崎
津軽塗	須藤賢一	鏡面盛木(○・□)	青森
津軽塗	白川明美	唐塗皿「桜・芽吹」	青森
鎌倉彫	志知勢次	大椀 一本線	神奈川
鎌倉彫	青山常昭	桜の髪留め	神奈川
村上木彫堆朱	鈴木伸也	デミタスカップ&ソーサー ペア(堆朱・朱溜塗)	新潟
高岡漆器	菅原幸	椿のはりさし	富山
漆器	旬馬ゆきの	Tsuzumi - Red Tame & Black Tame	富山
山中漆器	針谷祥吾	翡翠蒔絵 栃四ツ組椀	石川
山中漆器	清水一人	三段重 墨流し塗	石川
輪島塗	北濱幸作	溜塗盛器	石川
輪島塗	齋藤弘茂	フルーツ皿「鯛きたる」	石川
八雲びいどろ(ガラス漆器)	漆工房大燈 武田純	酒器揃え 八雲兎	島根
香川漆器	渡辺光朗	スープカップ3点セット ペア	香川
岩谷堂筆筥	及川洋	小径の向こうに	岩手
樺細工	経徳明夫	総皮茶筒「側たみ貼り」	秋田
樺細工	有限会社 富岡商店	reconstructions(再構築) 3個組	秋田
奥会津編み組細工	佐久間宗一	山ブドウ手提げバック	福島
奥会津編み組細工	矢部晋也	山葡萄花結びトートバック	福島

工芸品名	出品者名	作品名	都府県
春日部桐箆笥	小野留太郎	桐座手持ち仕事机	埼玉
江戸指物	根本一徳	携帯型スマホスタンド	東京
額縁	當眞嗣人	木彩額窓	東京
加茂桐箆笥	有限会社 茂野タンス店	桐コンソール500	新潟
長野県農民美術	春原利二	桑 拭漆 菓子器	長野
木工作品	もこれび堂 早瀬孝志	食卓の彩り	大阪
松江藩藤細工	川口淳平	藤花結編網代編組籠バッグ	鳥取
江戸和竿	竿貴 鴨下貴仁	十本継ぎ鯛竿	東京
高山茶釜	久保左元	彩り茶釜（黒竹）	奈良
南部鉄器	菊池真吾	南部形鉄瓶 若竹	岩手
南部鉄器	菊池飛鳥	鉄瓶「テイク」1.0L	岩手
南部鉄器	山田真	新珠形鉄瓶 幸玉 1.6ℓ	岩手
南部鉄器	大村敏宏	鉄瓶「波紋」	岩手
銀器	相川千明	手網煙管～木目金縞螺旋～	群馬
東京銀器	沼田四郎	銀製ボタンペンダントブローチ	東京
越前打刃物	野村和生	庖丁野村型 牛刀210 全長350ミリ	福井
堺打刃物	山塚光雄	黒・槌模様	大阪
白根仏壇	株式会社 福宝	手元供養台 NEST	新潟
金沢仏壇	株式会社 池田大仏堂	沈金溜塗蒔絵仏壇	石川
金沢仏壇	塗師岡聖治	市松	石川
尾張仏具	和悠庵（野依克彦）	魚のピンズ “nanako”シリーズ	愛知
赤間硯、熊野筆、 石州和紙、奈良墨	綴るプロジェクト	おてがみせつと「綴り」	山口
土佐硯	足達真弥	袖珍硯	高知
宮城伝統こけし	金盛友実	正月こけし	宮城
江戸切子	野口友和	冷茶碗「風雅」（赤「香風」 青「風雪」 紫「金風」 黒「風雅」 緑「葉風」）	茨城
江戸切子	篠崎英明	銘々皿5種揃え	東京
江戸切子	篠崎翔太	酒グラス「宝冠」5色揃え	東京
江戸切子	中宮涼子	酔郷シリーズ 光華 ペアグラス	東京
江戸切子	椎名隆行	砂切子「紅葉」	東京
江戸切子	木本硝子株式会社	ファセットピアス／KIRIKO JEWELRY TOKYO	東京
江戸切子	木本硝子株式会社	ラインリング／KIRIKO JEWELRY TOKYO	東京
如雨露	根岸洋一	Watering Jug	東京
尾張七宝	原田里子	省胎七宝ランプ 勿忘草と波に蝶 （Vergissmeinnicht）	愛知
京扇子	菱田隆之	KINU KAMI 小紋「彗 / 渦 / 縞」	京都
京仏壇	松田勉	京都オパールペンダント＆ブローチ（RURI） 色	京都
庄川挽物木地	横山挽物木地 横山勝次	たけのこの重 -うすらい塗り-	富山



審査委員長 東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者 増村 紀一郎

2021（令和3）年11月24日（水）、第46回「全国伝統的工芸品公募展」の審査会が東京港区六本木の（建築家 黒川紀章の設計）にて行われました。応募総数は254点、212人、去年は254点なので同数となりました。

「審査基準」

製造技術の水準、用途、継続性、的確な販売価格、アイデアやデザインの独自性、現代の暮らしの中での存在感などがあり、かつ使い手の日々が楽しくなるような伝統工芸品を選ぶことになりました。

「審査員の方々」当日に集まりましたメンバー。

（株）高島屋日本橋店呉服部長の宇野万貴子氏、金沢国立工芸館主任研究員の北村仁美氏、東京藝術大学大学美術館長の黒川廣子氏、岐阜県セラミックス研究所の小稲彩人氏、経済産業省伝統的工芸品産業室長の斎藤秀幸氏、工芸ライターの中敦子氏、「美しいキモノ」エディトリアルスーパーバイザーの棚町敦子氏、日本伝統工芸士会副会長の戸田敏夫氏、クラフトバイヤーの日野明子氏、（有）T-POT・（株）t.gallery代表取締役の御手洗照子氏、伝統的工芸品産業振興協会代表理事の原田元氏と東京藝術大学大学名誉教授・重要無形文化財保持者の増村紀一郎がなりました。

「審査会」

厳正な審査の結果、254点の中から基準を満たした97点が入選作品となり、その中から15点が入賞となりました。

「入賞作品」

内閣総理大臣賞は、大館曲げわっぱ「天然秋田杉シャンパンクーラー 大、中、小」柴田昌正（秋田県）の作品が審査基準のすべてを満たしていることが評価され選出されました。秋田県の厳しい環境に育てられた、木目が詰んだ美しい天然杉を熟練の技で器に曲げられ、綴じ目の桜皮の幾何学文様はおしゃれで美しく、今と言う時代を読んだ製品として評価したい。

経済産業大臣賞は、本塩沢「和“ジャケット” 酒井織物有限会社（新潟県）の作品が選出されました。素材に生糸を用い横糸に強い撚りを掛け、織り上げた後に湯もみをする撚りが戻って「シボ」ができる、そのサラリとした肌触りが特徴の絹織物です。この布で仕立てたジャケットで、上品で優雅な仕上がりです。

経済産業省製造産業局長賞は、琉球びんがた「帯『島の輝き』」田中紀子（沖縄県）の作品が選出されました。技法は型紙一枚から多彩な文様を染め分ける紅型染ですが、デザインは単純ですが明快な沖縄の印象を実にうまく表現しています。

中小企業庁長官賞は、常滑焼「火窯変 紅茶用 茶器セット」梅原廣隆（愛知県）の作品が選出されました。常滑焼は朱泥の急須が有名ですが、授賞作品は敢えて黒に近い褐色の紅茶セットです、茶の香を楽しみましょう。

日本商工会議所会頭賞は、箱根寄木細工「寄木嵌装茶箱」本間昇（神奈川県）の作品が選出されました。作者は御年90歳、箱の身と蓋は神代櫟（ジンダイケヤキ）造りである、蓋の上縁は榎木である黒柿を使い几帳面に削り、美しさと強度を両立させている、漆材の黄色い菱文様もモダンである、茶室から出て自由に茶を楽しみたい。

全国商工会連合会会長賞は、木綿緯緋帯地「南国花鳥図」山内ゆう（島根県）の作品が選出されました。木綿を素材にした緋織の帯地である、おらかな花鳥文様が評価された。

全国中小企業団体中央会会長賞は、西陣織「棕櫚芭蕉蒔絵聯」洛陽織物株式会社（京都府）の作品が選出されました。真綿に撚りをかけて紡いだ糸に焼箔（黄金色の箔）を用いた金糸で蒔絵風に織り上げた聯だが、対でなく自由にタペストリー様に使用できるでしょう。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞は、東京銀器「珈琲ドリップケトル揃」亘理立（東京都）の作品が選出されました。銀を素材に、アテガネと金槌を用いた鍛造のケトル、ミルク入れ、砂糖壺の揃い物です、持ち手と摘みは唐木の紫檀材を加工して仕上げてあり、機能と美を備えた優雅な作品です。

日本伝統工芸士会会長賞は、仙台筆筥「姫御輿」増野繁治（宮城県）の作品が選出されました。昨年に引き続いての受賞です、家に設置したならば調度品としての存在感は抜群であろう、しかしながら作品名は普通に仙台筆筥で良いのではなかろうか。

若手奨励賞Ⅰは、江戸切子「光芒」石原圭悟（東京都）の作品が選出されました。この賞は出品者の専門分野に従事した年数が15年以下の方々から選びました。切子は表面に着せた色ガラスに道具を使い研削加工する技術ですが、題名の通り光の先端が美しい。

若手奨励賞Ⅱは、土佐硯「内なる検索 スマホ硯」足達真弥（高知県）の作品が選出されました。古美術商の店にいくと、矢立の硯をよく見かけたものです。受賞作と機能は同じです、人前で取り出すとスマホでは無く硯とは、自慢の逸品になることは間違いない。

奨励賞は、高山茶釜「彩り茶釜（白竹）」久保左元（奈良県）の作品が選出されました。茶道の世界では高山茶釜の存在はあまりにも有名です、竹を知り尽くした技術から生まれた機能と美を備えた作品です。

バイヤー賞は、審査員の中でも工芸品の販売に携わる先生方が選出した作品です。

- ①奄美の芭蕉布「帽子 キャブリーヌ」長谷川千代子（鹿児島県）
- ②南部鉄器「ドリップぺっこ0.5ℓ」畠山拓巳（岩手県）
- ③越前打刃物「粉末鋼積層牛刀180mm、ペティ120mmセット」有限会社 加茂藤刃物（福井県）の以上、三作品が選出されました。

以上、入賞・入選された方々おめでとうございます、今回も昨年に引き続き国立新美術館での審査と展示会場となりました。

展示作品を熟覧すると、無から有を生み出すには、素材を見出す目、取捨選択する力、加工する技術を保持する作者は大勢見かけました。受賞作たちは現在がどういう時代なのか感覚として理解した方々であると思います。

いま会社の仕事もステイホーム、出社する事なく家で働く人が多くなったようです。働き方の変化により日々の生活の中から今まで気が付かなかった価値を見直すことが生まれようとしています。コロナ禍は必ず終息します。

今を冷静に分析し、そしてこれからを見据えた、考える作者が作る伝統的工芸品の誕生が期待されます。

今年も展示会場としての環境は申し分なく、公共交通の地下鉄「乃木坂」駅と一体となっており、コロナウイルスの流行がなければ多くの来場者も見込まれたに違いありません。本展示は2021年11月26日（金）～12月6日（月）までは国立新美術館で開催されました。

引き続き、優秀作品展として2021年12月17日（金）～2022年1月6日（木）但し12月29日～1月3日まで休館にて、東京都港区赤坂の伝統工芸青山スクエアでも開催しました。

なお、2022年1月14日（金）に明治記念館「芙蓉の間」で行われる予定でした、授賞式・表彰式はオミクロン株感染者拡大のため、残念ながら本年も中止となりました。本年も受賞者の皆様に祝い、激励する機会がなかったことは残念でした。

応募概況

業種	工芸品数				応募者数				点数			
	指定	都道府県等指定	非指定	産地数計	指定	都道府県等指定	非指定	産地数計	指定	都道府県等指定	非指定	産地数計
織物	13	1	2	16	21	1	2	24	26	1	2	29
染色品	9	0	5	14	15	0	5	20	21	0	5	26
その他繊維製品	0	1	2	3	1	1	2	4	1	1	2	4
陶磁器	15	4	3	22	33	4	3	40	35	6	4	45
漆器	8	1	2	11	16	1	3	20	18	1	4	23
木工品	9	2	3	14	12	2	3	17	13	2	3	18
竹工品	3	0	1	4	3	0	1	4	4	0	1	5
金工品	5	1	3	9	19	1	3	23	22	1	3	26
仏壇・仏具	7	0	4	11	8	0	4	12	10	0	6	16
和紙	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1	1
文具	2	1	0	3	3	1	1	5	3	2	1	6
貴石工品	1	0	1	2	1	0	1	2	1	0	1	2
人形・こけし	1	0	0	1	1	0	0	1	2	0	0	2
諸工芸	8	1	9	18	24	2	9	35	31	2	9	42
材料・用具	1	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	1
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コラボ	2	1	0	3	2	1	0	3	7	1	0	8
	84	13	36	133	160	14	38	212	195	17	42	254

<応募者内訳>

指定・非指定	男	女	企業・団体	合計
指定	115	27	18	160
都道府県等指定	7	5	2	14
非指定	21	15	2	38
合計	143	47	22	212

指定＝経済産業大臣指定伝統的工芸品
都道府県等指定＝都道府県等地方自治体の指定を受けている工芸品
非指定＝経済産業大臣・都道府県等の指定を受けていない工芸品

国立新美術館での展示会

昨年度に引き続き国立新美術館での展示会を実施、応募作品254点を展示しました。昨年の倍以上の人数である約5,000名の方々にご来場頂き、公募展をご存じない皆様にも広く工芸品の良さを知って頂く好機となりました。ご来場者からは「どれも素晴らしかった。日本の伝統的工芸品を使ってみたいという気持ちが強くなった。」などの御意見も多数頂戴しました。

会 期 : 2021年11月26日(金)～2021年12月6日(月)
※11月30日(火)休館
10:00～18:00(最終日は13:00迄)

会 場 : 国立新美術館 1階展示室 1D(東京都港区)

来場人数 : 4,946名



優秀作品展

入賞・入選した97点の作品展を行いました。

会 期 : 2021年12月17日(金)～2022年1月6日(木)
会 場 : 伝統工芸青山スクエア(東京都港区)
販売作品点数 : 19点

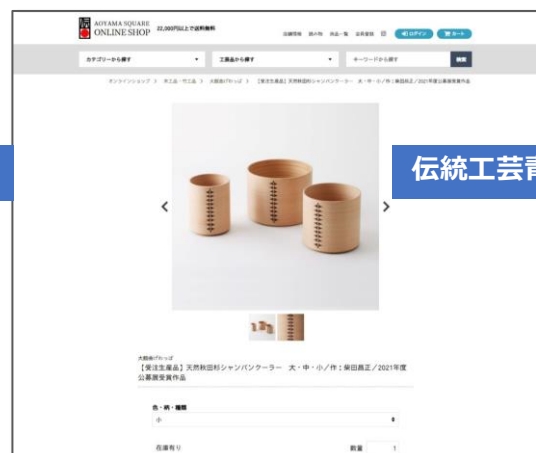
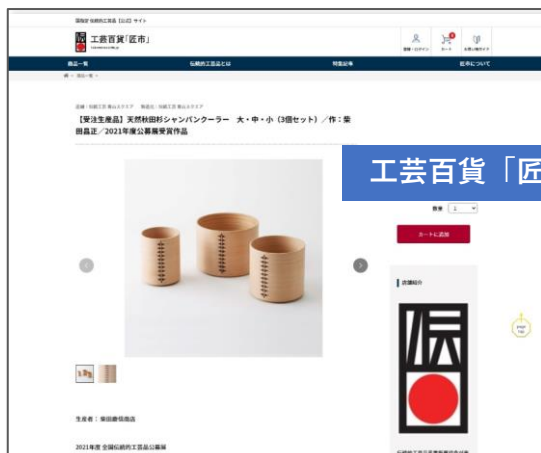


授賞式

2022年1月14日(金)に明治記念館にて授賞式を開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染状況を考慮し、ご出席の皆様への感染防止を第一の責務と考え、止むなく開催を中止とさせて頂きました。

オンラインでの受注販売

受賞作品を対象に「工芸百貨『匠市』」・「伝統工芸青山スクエア」にてオンラインでの受注販売ページを設けました。



◆作品募集



ポスター・チラシ(表)

チラシ(裏)

◆展示会



ポスター

チラシ



DM(日本語)

DM(英語)

SNSによる情報発信

■公式Instagram

応募者や来場者の皆様へのよりタイムリーな情報発信を行うため公式のInstagramにて展示会等の情報を発信しました。



【全国伝統的工芸品公募展公式Instagram】
https://www.instagram.com/kouboten_kougei

■伝統工芸青山スクエアSNSでの情報発信

公募展Instagramに加え、より多くのフォロワー数を持つ伝統工芸青山スクエアのSNSでも作品募集や展示会等に関して情報発信を行いました。

<Instagram>



<Twitter>



<Facebook>



周辺駅等でのポスター掲示

国立新美術館での展示会に関して美術館自体への来場者や周辺駅使用の方々に向けて、開催を周知するために下記の駅にて展示会ポスターを掲出しました。

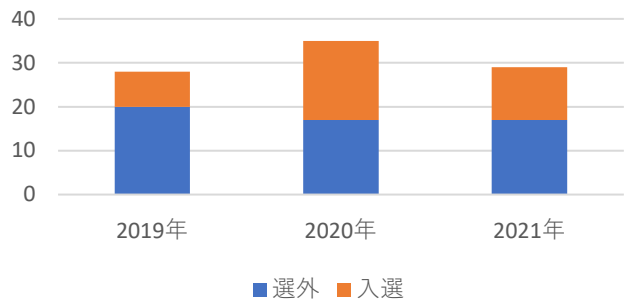
【掲出駅】

- ・乃木坂駅（千代田線）
- ・表参道駅（銀座線）
- ・六本木駅（日比谷線）

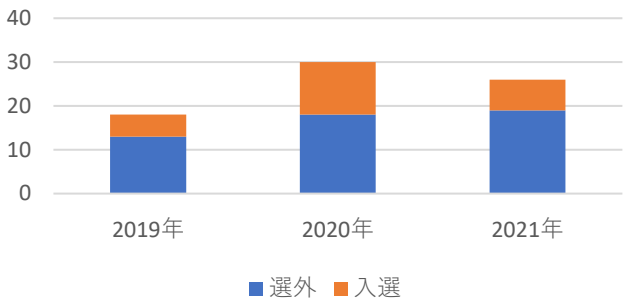


工芸品別 過去3年間の応募数推移

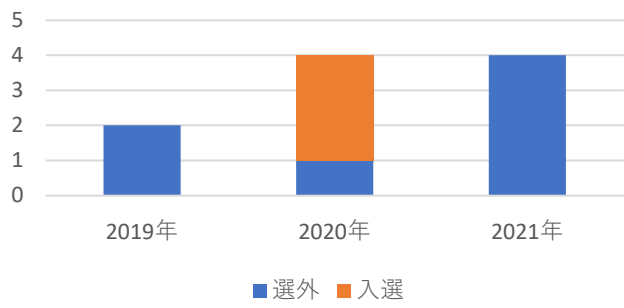
織物



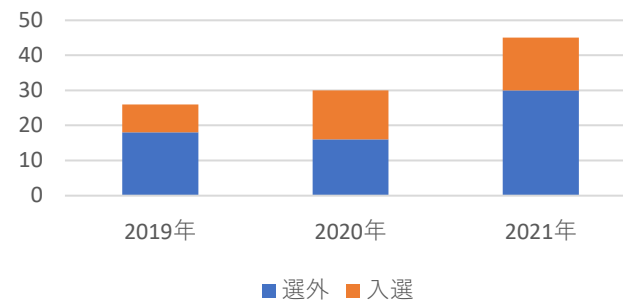
染色品



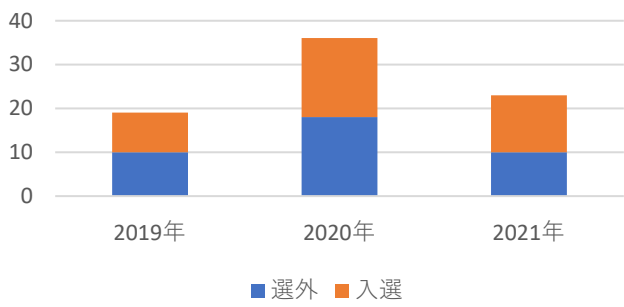
その他繊維製品



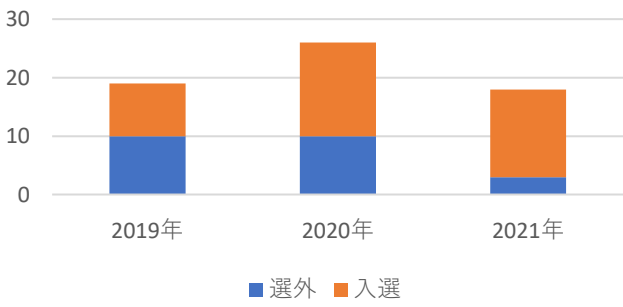
陶磁器



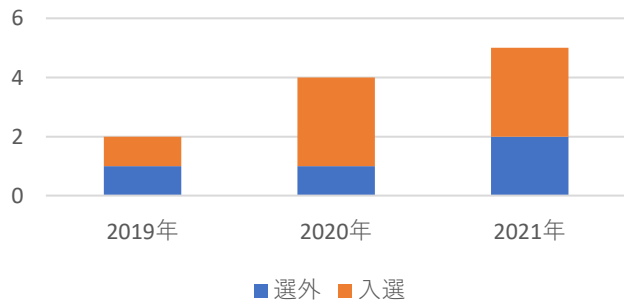
漆器



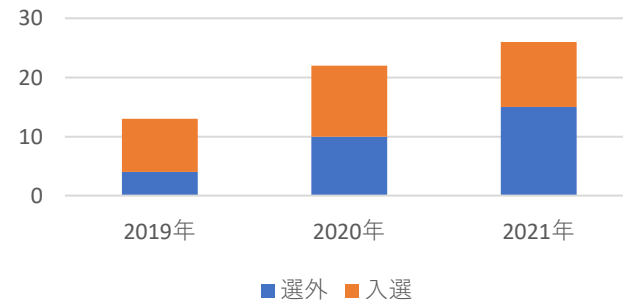
木工品



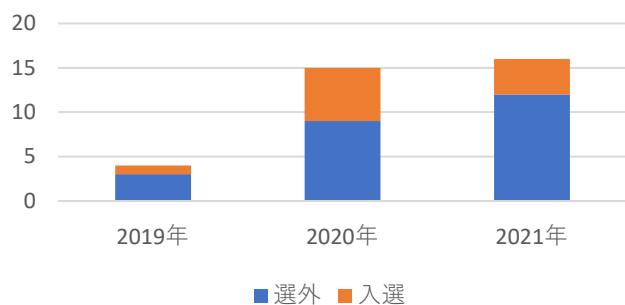
竹工品



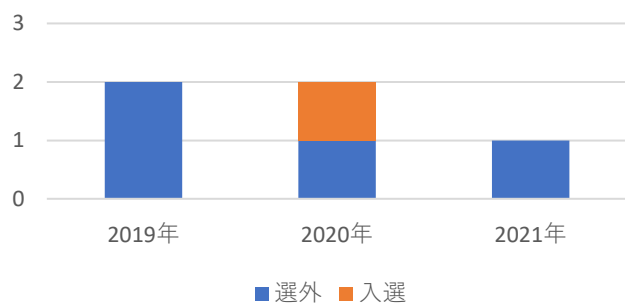
金工品



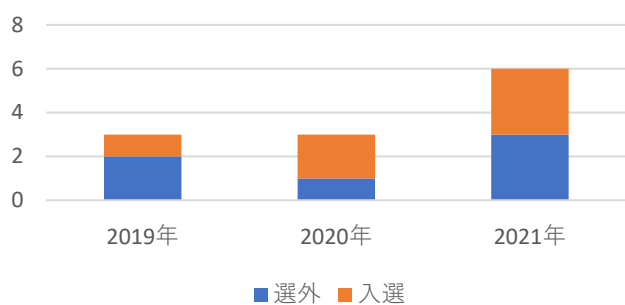
仏壇仏具



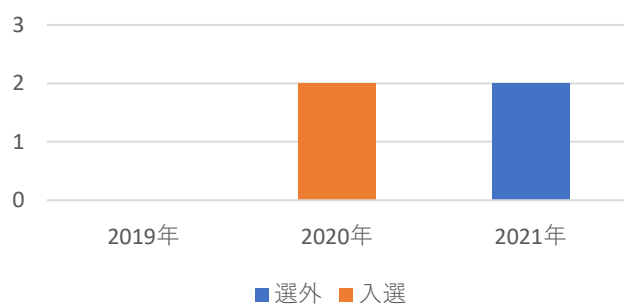
和紙



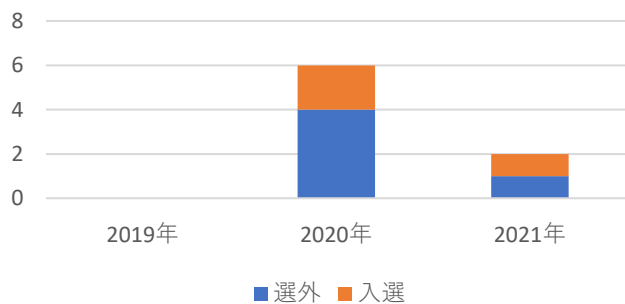
文具



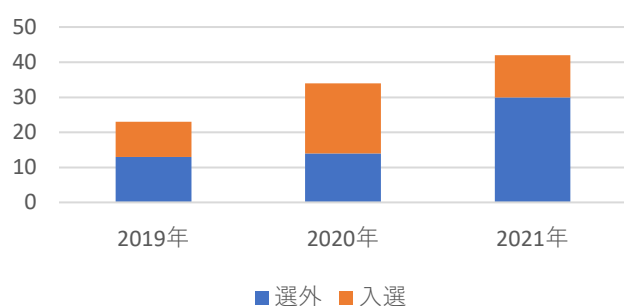
貴石工品



人形・こけし



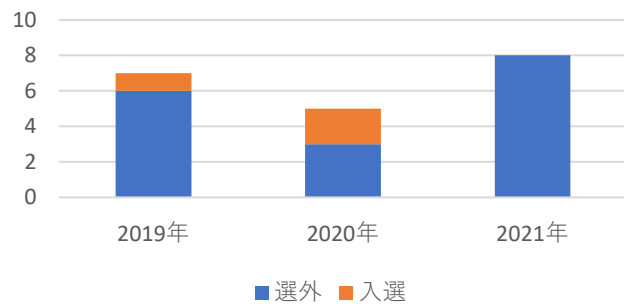
諸工芸



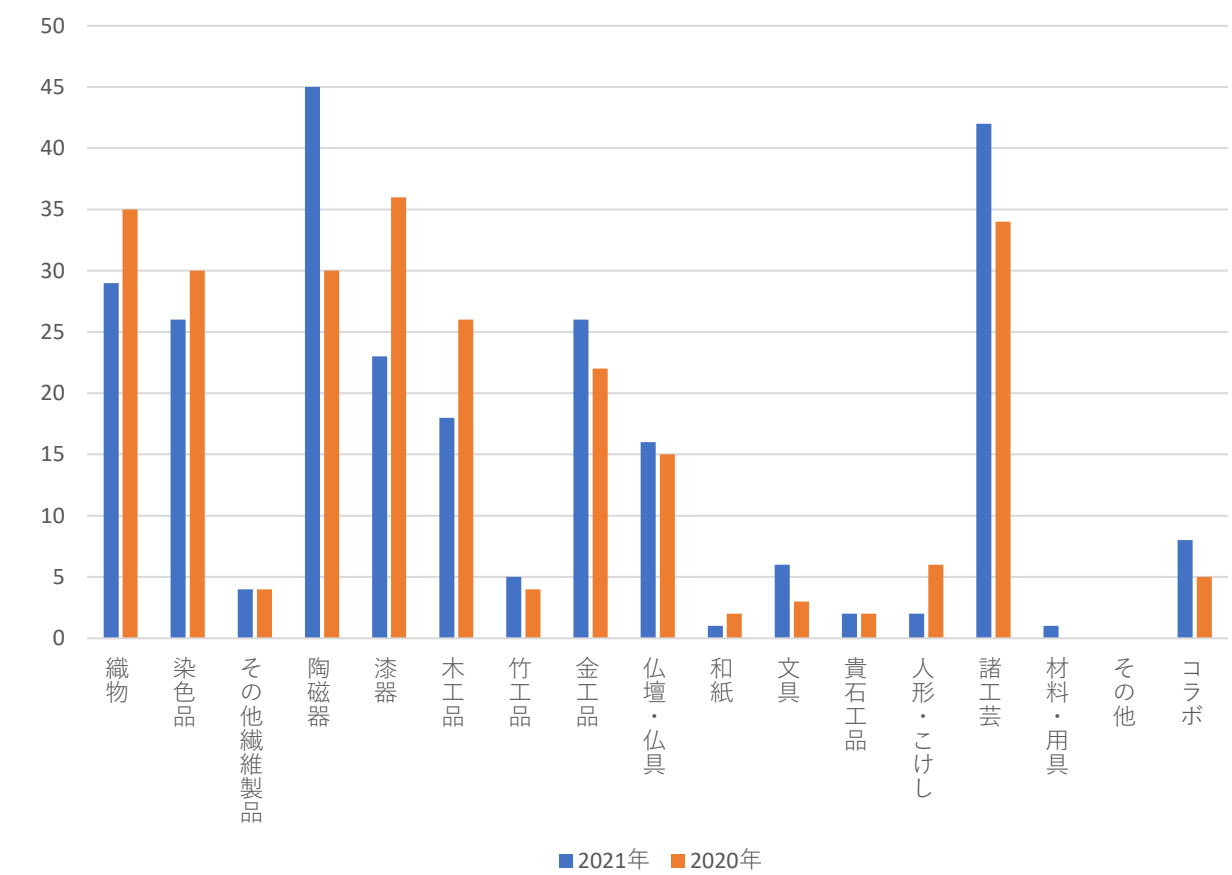
材料・用具



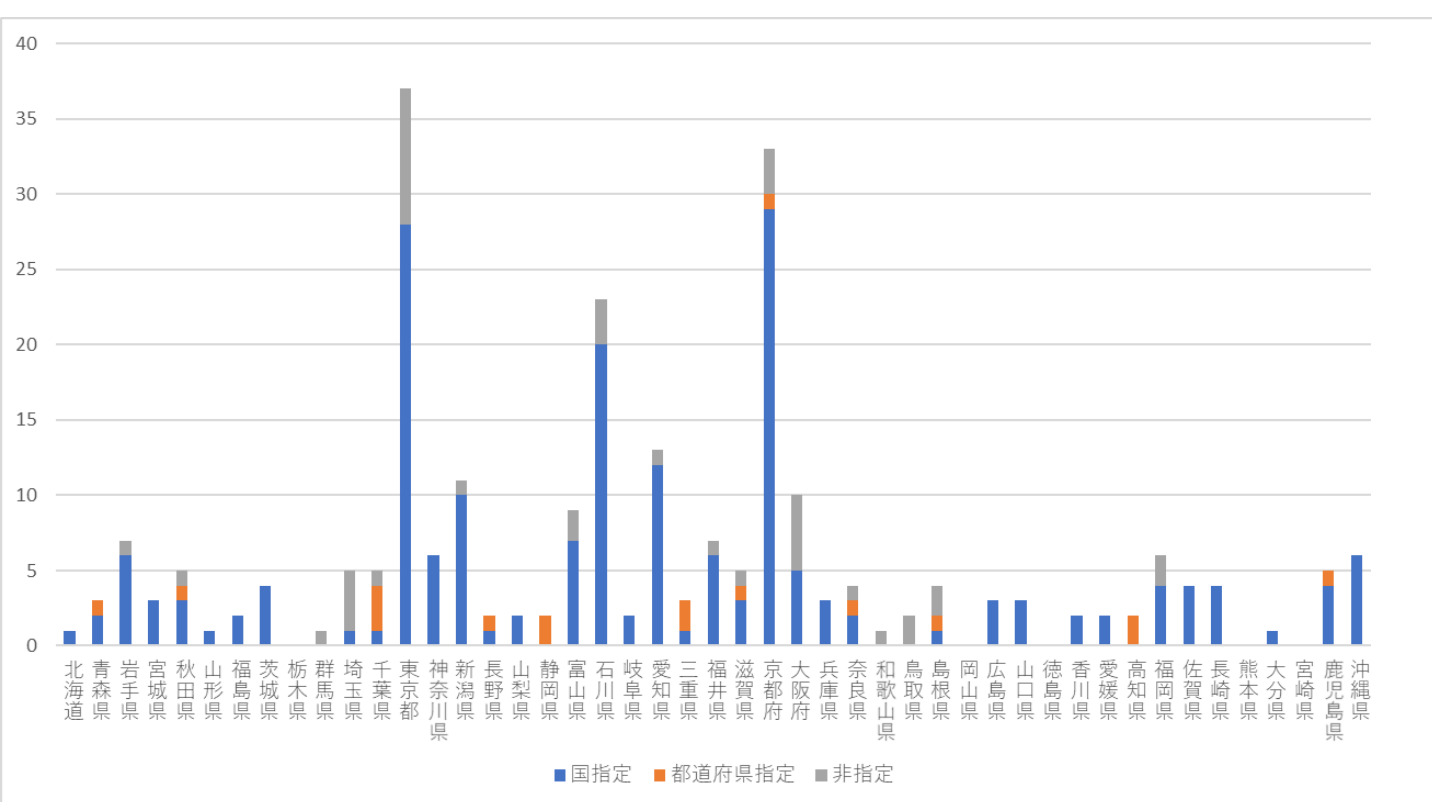
コラボ



業種別の応募点数(前年度比較)



都道府県別応募点数





一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

〒107-0052 東京都港区赤坂8-1-22

TEL 03-5785-1001 FAX 03-5785-1002

kikaku@kougei.or.jp <https://kyokai.kougeihin.jp/>

